



はくほうWalker

広報誌名「はくほうWalker」
はくほう会セントラル病院は地
域住民や患者様と共に歩むとい
う想いが込められています。

No.6

～5th anniversary～
開設5周年を迎えます！

花粉症について

～アレルギーの専門家が花粉症の対処方法をお教えします～

臨床検査部より検査のご紹介

伯鳳会尼崎 学術発表会レポート

外科のご紹介

栄養管理部のご紹介

味も見た目も美味しく！

救急 はくほう会セントラル病院





～5th anniversary～

開設5周年を迎えます！

ご挨拶

はくほう会セントラル病院は2015年に開院しました。本年は開設後5年目の節目を迎えます。開設当初は外来診療に加え、回復期（リハビリテーション）病棟と急性期病棟の計240床の病棟で入院診療を開始しました。その後、5年間経過して現在、病棟は254床に増床し、回復期病棟と急性期病棟に療養病棟および地域包括ケア病棟が加わり、様々の病状の方に対応できるようになりました。急性期は内科（消化器内科、糖尿病内科、神経内科、総合内科）、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓外科、皮膚科、麻酔科、放射線科などの診療科を有し、最新の診療機器や治療機器を用いて、診療を行っており、救急医療は24時間対応の体制で行っています。リハビリテーション科は先進リハビリを含めたリハビリを365日体制で行っています。

当院が5年間に充実し、発展できたのは、ひとえに地域の医療機関の方々のご支援、ご協力のおかげと感謝申し上げます。また、当院をご利用いただいた患者様やご家族の方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後も地域の方々から信頼される病院、選ばれる病院を目指して職員一同邁進してまいりたいと思っています。今後のはくほう会セントラル病院の発展をご期待ください。

院長 古賀正史



Anniversary



th





20
15

2015年4月に医療法人朗源会より経営移管し、医療法人伯鳳会はくほう会セントラル病院が誕生しました。回復期リハ病棟の充実や電子カルテのリニューアルなどを行いました。経営数値を公開し、職員がそれを認識したことで、経営移管直後より経営は安定しました。

2016年は、AMAT隊（全日本病院医療支援班）を結成し、防災・災害対応に病院として動き始めました。また、訪問リハビリ事業を開始。来院して頂いてのリハビリだけではなく、こちらから出向いてリハビリを提供できるようになりました。

20
16



20
17

2017年は、病院の病床数も増加し、重症ユニットや療養病棟を新規開設しました。また、リハビリテーションの更なる強化のため、先進的な機器や技術を取り入れることを進めました。ロボットスーツや電気刺激装置、再生医療などを駆使したリハビリの新たな可能性を広げた年となりました。

2018年は、病床数が248床から254床へと増床し、新たに地域包括ケア病床を開設しました。また、院内調剤薬局を新設し、患者様に低コストで医薬品を提供できる体制としました。また、伯鳳会グループ全体の大規模災害訓練を主催し、警察・消防と合同で臨みました。直後に台風による停電被害がありましたが、訓練効果もあって職員が力を合わせて、迅速に対応にあたりました。

20
18



20
19

2019年は、救急車受け入れ件数が増加し、急性期医療では手術件数も増え、多くの患者様に医療を提供できた年となりました。また、介護保険分野では訪問リハに続き、通所リハ事業を開始しました。

職員の医療技術の研鑽として、伯鳳会グループ学術発表会を主催し、様々な研究報告などが発表されました。

そして2020年
オリンピック開催で日本が賑わう中、当院では、「病院機能評価」の認定取得に合わせて、病院全体で「質の改善・向上」を徹底し、正常進化できる年とします！開設より5周年となった本年も地域の方々の安心を支える存在であるように、絶えず変化を求めながら、活動して参ります。

20
20



花粉症について

～アレルギーの専門家が花粉症の対処方法をお教えします～

アレルギー性鼻炎（花粉症）のあれこれ

毎年スギ花粉が飛ぶ季節になると、くしゃみや鼻水にお困りの方が多いと思います。春だけでなく秋、あるいは一年中くしゃみ・鼻水に悩まされている方もいらっしゃるかと思います。私は長年にわたり兵庫医科大学で、免疫・アレルギーの研究を行って来ました。今回は、多くの皆さんがお困りのアレルギー性鼻炎（花粉症）について判り易く解説していきます。

内科・アレルギー
善本医師

1) アレルギー性鼻炎とは？

「くしゃみ、鼻水、鼻づまり」を三大症状とする鼻のアレルギーがアレルギー性鼻炎です。アレルギー性鼻炎はさらに、ダニやハウスダストなどが原因で一年中症状が見られる**通年性アレルギー性鼻炎**と、花粉が原因で発症する**季節性アレルギー性鼻炎**に分類され、後者がいわゆる花粉症です。花粉症の場合、「くしゃみ、鼻水、鼻づまり」に目のかゆみや涙（アレルギー性結膜炎）も症状に加わるのが特徴です。皆さんは、どちらのタイプの鼻炎があるのかを、まず考えてみて下さい。アレルギー性鼻炎は、先進国を中心に増加の一途にあり、患者数は世界中で推定約6億人もいます。世界の人口数が約70億人ですから、いかに患者さんが多いか、お分かりかと思います。

2) 花粉症の問題点

アレルギーを引き起す蛋白質をアレルゲンと言います。欧米における花粉症の約50%はブタクサ花粉ですが、日本では原因アレルゲンの大半がスギです。2017年のわが国におけるスギ花粉症がある人の割合（有病率）は約44%と非常に高く、特に20歳代ではこの10年間で35%から49%と急激に増加しています。さらに最近では、花粉症が①低年齢の子供にも発症すること、②アレルギー体質がなかった成人や高齢者にも発症すること、③PM2.5などの大気汚染物質が花粉症を増悪していることなど、深刻な問題が山積みです。

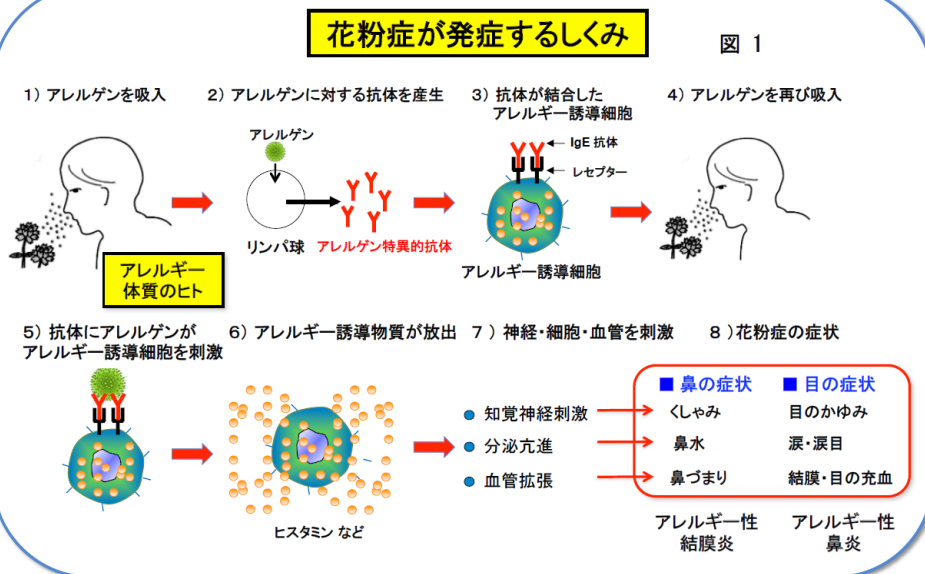
3) 季節毎の花粉尘

毎年2月初旬に春一番が吹いた後、バレンタインデーの前後からスギ花粉が飛散します。その後ヒノキ（3～5月）、夏にイネ科のカモガヤ（4～7月）、秋にヨモギ（8～9月）、ブタクサ（8～10月）と花粉が飛びます。北海道にはスギがありませんが、シラカバ（4～5月）花粉が猛威を振ります。私達が住む阪神地区にも特徴的な花粉があります。それは、シラカバと親戚のヤシャブシ（1～5月）です。六甲山を切り開いてポートアイランドを造りましたが、その跡の山に多くのヤシャブシが植えられました。1月から鼻水やくしゃみがある方は、ヤシャブシが原因の可能性があります。

4) どのような人が花粉症になるのか？

4割以上の日本人がスギ花粉症に罹っているとお話しました。しかし、全ての人が花粉症になるものではありません。いわゆる**アレルギー体質**という、花粉に対して敏感な免疫をもっている人が発症します。免疫は体を細菌などから守るための重要な機能です。くしゃみや鼻水も実は鼻に入った異物（花粉）を吹き飛ばして、洗い流す防御反応です。しかし、その反応が不快なのがアレルギー反応です。アレルギー体質の人は花粉アレルゲンが体に入ると、リンパ球がアレルゲンに特異的な抗体（IgE抗体）を作ります。抗体はアレルギー誘導細胞の上に結合した状態でいつまでもいます。次に同じ花粉物質を吸入すると、抗体にアレルゲンが結合してアレルギー誘導細胞を刺激します。その結果、2～3分で細胞からヒスタミンなどのアレルギー誘導が放出されて、くしゃみ神経や粘液細胞を刺激して様々な花粉症の症状を引き起します（図1）。

しかし、先に述べた様に、最近ではアレルギー体質でない人がある日突然花粉症になることがあります。この理由として、私の研究から鼻粘膜が長年にわたり花粉の刺激を受けた結果、花粉に含まれる酵素（プロテアーゼ）がハサミの様に鼻粘膜のバリアを切り壊してアレルゲンが体に入り易くなり、アレルギー体質に変化することが明らかになりました（図-2B）。



内科に中川医師が新たに着任しました

この度はくほう会セントラル病院で勤務させていただくことになりました中川です。内科特に消化器疾患および内視鏡検査を中心に担当させていただきます。

金沢大学を卒業し、大阪大学消化器外科に入局後西宮市立中央病院で研修させていただき、その後は内視鏡検査を中心に消化器疾患の診療に携わってまいりました。患者さんにとって苦痛・負担の少ない内視鏡検査をモットーに気軽に検査を受けていただけるよう取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。

内科
中川医師



5) PM2.5の花粉症への影響

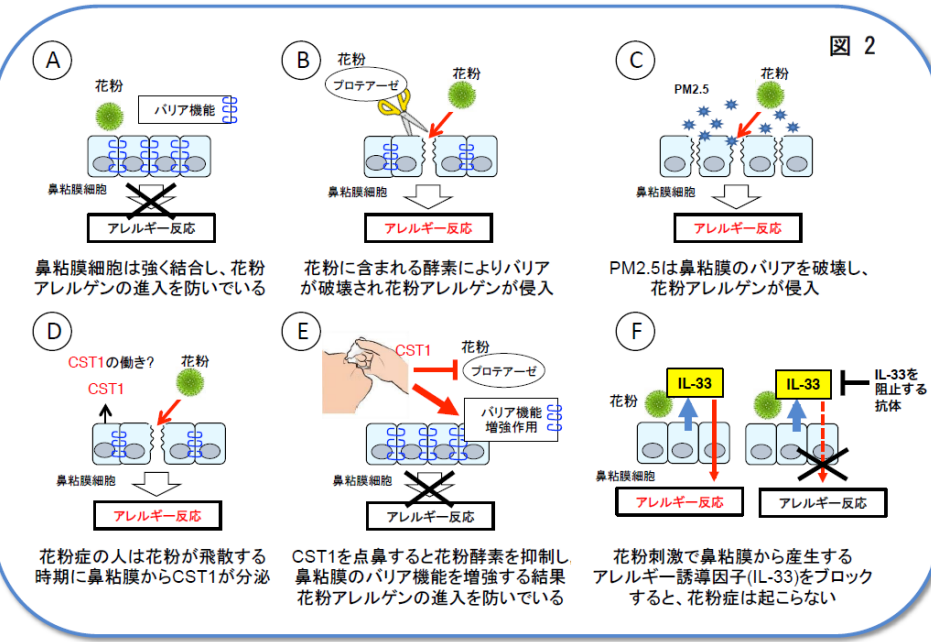
最近、スギ花粉が飛散する時期に一致して高濃度のPM2.5が大陸から飛来すると花粉症患者が増加し、症状が悪化することが社会的に問題となっています。この原因もPM2.5が鼻粘膜のバリアを速やかに破壊して、アレルゲンが体に入り易くなることを私は明らかにしました(図-2C)。さらに、ある薬を予め点鼻するとPM2.5の作用を完全にブロックして、花粉症の発症を予防できることを発見しました。現在、この薬を用いた新しい治療薬を開発中です。

6) 花粉症と果物アレルギー

花粉症の患者さんの中には、果物を食べて15分以内に唇や舌、喉の奥がかゆくなったり腫れたりする人がいます。特に、トマト、メロン、りんご、キウイを食べてこのような症状がある花粉症の方を多く診察します。これは、花粉アレルゲンと果物が持つアレルゲンが共通しているため、口に入った果物に対してアレルギー反応を引き起しているのです。このような症状を経験した花粉症の患者さん、あるいは一年中鼻炎症状がある患者さんは、一度ご自身がどのアレルゲンにアレルギーがあるのか検査をすることをお勧めします。当院では、少量の採血で39種類のアレルゲンを検査できます。気軽に「内科・アレルギー外来」にご相談下さい。

7) 現在の花粉症治療法

花粉症(アレルギー性鼻炎)の治療の第一は、原因となるアレルゲンに遭遇しないことです。しかし、マスクやゴーグルをかけても症状は起こります。「くしゃみ・鼻水」には抗ヒスタミン薬を、「鼻づまり」には抗ロイコトリエン薬を内服します。花粉症の季節にテレビコマーシャルでよく見るのが前者の抗ヒスタミン薬です。一方、全ての鼻炎症状に効果があるのが、ステロイド点鼻薬です。以前は症状の程度に応じて、軽症では内服薬から初め、症状が強くなると点鼻薬を用いることが勧められていました。しかし、最近では初めからステロイド点鼻薬で治療することが多くなりました。この他、目が痒い方には抗ヒスタミン薬の点眼液があります。数年前から、スギまたはダニのエキスを舌の下に毎日投与する「舌下免疫療法」が登場しました。これは、スギやダニに対して過敏に反応しない体に体質を変える治療法です。しかし、3年間以上毎日投与すること、スギやダニ以外の鼻炎患者には効果がないことなど、問題点が多いのが現状です。



8) 未来の花粉症治療法

私が発見した新しい治療法を紹介します。福井大学病院耳鼻咽喉科の藤枝教授が、スギ花粉症の患者さんの鼻粘膜には「ある蛋白質:CST1」が花粉の時期に上昇することを発見しました(図-2D)。私達はCST1の働きを研究した結果、①花粉アレルゲンに含まれる酵素(プロテアーゼ)は鼻粘膜バリア構造を破壊するのにに対し、②花粉刺激で鼻粘膜から産生されるCST1はプロテアーゼの働きを完全に抑制し、③その結果、鼻粘膜バリア構造を保護します。さらに、④予めCST1を点鼻すれば花粉症の発症を完全に予防できます(図-2E)。即ち、花粉で鼻粘膜から産生されるCST1は花粉症に対する防御反応です。CST1を点鼻して鼻粘膜バリアを強くする治療法はこれからの花粉症治療薬です。もう一つ私は、花粉症者さんの鼻水にアレルギー誘導蛋白質インターロイキン33(IL-33)が産生されることを発見し、このIL-33を作れないようにした動物は花粉症を発症しないことを発見しました(図-2F)。IL-33に対する抗体を人に投与するとアトピー性皮膚炎が良くなることが知られています。既に、IL-33に対する抗体を花粉症患者さんに投与する計画が進んでいます。CST1やIL-33を標的にした新しい花粉症治療薬が早くできるのが楽しみです。

花粉症(アレルギー性鼻炎)やアレルギーでお困りの方は、是非「内科・アレルギー外来」を受診して下さい。

はくほう会セントラル病院 内科・アレルギー外来
毎週(月)(水): 14:00~16:30 毎週(木)(金) 9:00~12:00
※祝日は休診です。ご来院前にホームページやお問い合わせにてご確認ください。



「いびき」を指摘されたことはありませんか？

「いびき」がでる疾患に睡眠時無呼吸症候群(Sleep Apnea Syndrome: SAS)があります。睡眠時無呼吸症候群とは、眠っている間に無呼吸状態(呼吸が止まっている状態)が繰り返される病気です。睡眠時無呼吸症候群の症状としては、以下があります

- 日中の眠気、熟睡感がない
 - 作業能率や集中力の低下
 - 夜間のトイレの回数が増える
- 睡眠時無呼吸症候群は、ただいびきがうるさいだけの病気ではなく、生活にも支障が大きく、また高血圧や糖尿病を代表とする生活習慣病を合併する頻度が高いことが、近年の研究で明らかにされています。放置すると大変に恐ろしい病気なのです。

睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診断

- ① 問診によって、いびきの具合や眠気、既往歴などについてお尋ねします。
 - ② 自宅でできる簡易検査を行います。
 - ③ 1泊2日入院のポリソムノグラフィー検査を行います。
- いずれの検査も、痛みを伴うような検査ではなく、寝ている間に検査は終了します。



治療

SASの治療方法は多岐にわたります。生活習慣の改善や医療器具による治療などがあり、患者さんに合った治療をご提案しています。「いびき」など、気になる症状がありましたら、早めの受診をおすすめいたします。



外科 紹介



外科
井上 晃男 副院長

兵庫医科大学 肝胆膵外科の関連病院として、現在2名の常勤スタッフで消化器全般ならびに肛門疾患に対する診療を行っています。

年間手術症例数は約80例程度を行っていますが、患者様ひとりひとりに最適な治療を提供出来るよう、他のメディカルスタッフとともに取り組んでいます。

また、急性虫垂炎やヘルニア嵌頓、消化管穿孔等に対する緊急手術も麻酔医とともに可能な限り対応できる体制を整えています。

悪性腫瘍に対する治療は手術のみでなく、化学療法（抗癌剤治療）・緩和ケアも行っており、手術だけで終わることなく先々の治療まで一貫して行い、患者様が手術を終えてからもサポートに重点を置き、安心出来るよう努めています。

具体的な内容としましては疾患別に御紹介致します。

消化器癌の中でも特に胃及び大腸癌に対する根治的もしくは姑息的手術は元よりその術後の定期検診や術後サポート、場合によっては化学療法や緩和ケアとしての疼痛中心とした種々の症状に対する対症療法とそのサポートなどを行っております。化学療法に関しましては消化器疾患全般に対してガイドラインに沿った最新の知見で当院の手術の有無にかかわらず遂行致しております。

この他に消化管手術だけでなく胆道系良性疾患に対する手術療法や内視鏡的加療、1泊2日などの短期間入院で行うヘルニア疾患の手術や痔疾患の手術・ジオン注射なども行っております。緊急対応としましては救急担当医や麻酔科医の連携協力の下、可能な限り24時間365日の手術もしくは入院対応に努めております。



外科
磯部 涼 医師



当院の外科は手術療法だけに留まらず、手術対応以外の疾患に対しても地域の皆様方にお役に立てるよう各処置の対応や内視鏡的加療、入院・通院加療も行っております。その一例としましては腸閉塞、炎症性腸疾患、消化管出血、気胸、外傷などなどです。何かお困りの事が有りましたら一度御相談下さい。

限られた人員での対応でなかなか御希望に添う事が出来ない事も多々有り、御迷惑をおかけする事も有るやもしれませんが、日々皆様方の健康にお力添え出来るよう努めさせていただきます。

外科 外来診療日

(月) : 磯部
(火) : 井上
(水) : 古城 (10:00~12:00)
(木) : 磯部
(金) : 井上
(土) : 1,3,5 磯部 2,4 井上

午前 : 9:00~12:00 (午後診療はありません)

※休診の場合がありますので、お問い合わせいただくか、ホームページ等でご確認ください。



栄養管理部 紹介

私たち栄養管理部は、安心安全な食事提供を行い治療のサポートすることを目標とし、患者様一人ひとりに合わせた栄養管理を行っています。

スタッフは病院栄養士3名、給食委託会社職員22名で構成されています。



給食業務は外部委託しており、600食/日を院内厨房で調理しています。

ベテラン調理師が数名在籍おり、急な食事変更等の対応も快く引き受けてくれる為、栄養士にとって心強い存在となっています。



献立作成は給食委託会社に委託していますが、新メニューは病院栄養士と給食委託栄養士が共同で考案しています。2019年度新メニューの中で特に好評なのが、『担々麺』『キーマカレー』『カレーうどん』と刺激が強いかな？と思うメニューが人気だったりします。

また、入院中でも季節を感じていただけるよう、旬の食材等を使用した行事食を月1回以上年間16回程度提供しています。毎回添えている行事食カードも工夫を凝らし、ご好評いただいています。

食器のデザインも一新、トレーも買い替えを順次行い、病院食改革真っ最中の栄養管理部。安心安全で美味しい病院食を今後も追求していきます。



特別な栄養管理が必要な患者様にはNST(栄養サポートチーム)が介入し、週1回カンファレンスと回診を行っています。チーム医療で適正な栄養管理を行い、早期退院に繋がられるよう取り組んでいます。

食事療法について理解を深めていただく為、個人に寄り添いわかりやすく丁寧に説明させていただきます。たくさん話しお聞かせ下さいね。



病院ホームページのご案内

はくほう会セントラル病院では、ご利用いただく全ての方々に、見やすく、分かりやすく情報をお伝えできるように、ホームページをリニューアルしました！また、日々更新、最新情報を掲載するように努めています。



はくほうかい

ホームページ アドレス <http://www.amahakuho.jp/>



スマホをお持ちの方はQRコードから



(Facebook, Inc.)

やっています



Instagram



やっています

『第3回 学術発表会』レポート

2020年1月18日(土)に医療法人伯鳳会 尼崎地区の『第3回学術発表会』が、園田東生涯プラザにて開催し、口演12演題とポスター10演題で各部署・施設による取り組みや研究内容が発表されました。今回のテーマは『Evolution-進化-』で、運営は当院麻酔科 藤田医師が実行委員長を務め、準備が進められました。

口演での最優秀演題には、介護老人保健施設はくほう リハビリ課 山田さんが発表した『食に対する欲求を満たすためのチームアプローチ』が選出され、ポスター発表での最優秀演題には、はくほう会セントラル病院 薬剤部 松田さんが発表した『フレアボイド報告から見えてきたもの』が選出されました。

教育講演では、はくほう会セントラル病院 皮膚科 安藤医師による『高齢者の皮膚疾患とステロイド外用剤』について講演していただきました。身近な皮膚疾患について、大変わかりやすく有意義な講演でした。

第3回となる今回の発表会は、日々の業務の中で感じたことなど現場の声から生まれた題材が多く、この発表を活かし各部署から病院全体へ、より良い医療につなげ、当院は進化し続けていきたいと思っています。

Evolution - 進化 -



病院敷地内及び敷地の周囲での禁煙のお願い

「県の受動喫煙の防止等に関する条例」が改正され、令和元年7月より一部施行されました。当院においては、以前より敷地内禁煙の遵守に取り組み、当院をご利用いただく方々にご理解とご協力をお願いして参りましたが、このたびより、禁煙の範囲を敷地内に限らず、敷地の周辺まで拡大させていただいております。また、紙巻式タバコ、加熱式タバコに加え、電子タバコに対しても対象となります。引き続き、ご理解・ご協力の程お願いも仕上げます。



【編集後記】

平成から令和へと時代が変わったと思っていたが、あっという間に令和2年となり、待ちに待ったオリンピック日本開催の年となった。

「お・も・て・な・し」で世界にオリンピック開催招致をアピールして、まさにあっという間である。その間、開催資金捻出の問題で国と東京都とIOCでの駆け引きが繰り広げられ、「レガシー」にこだわった会場建設、マラソン開催地の変更などなど、実に多くの難題があった。

世界が感銘を受けた「OMOTENASHI」については、どのような準備が進められているのだろうか…。一方で、ラグビーワールドカップ日本開催は大成を収めた。海外からの来日者に対して、まさに「ノーサイド」の精神で迎え入れる日本人の光景がクローズアップされた。

そうだ、我々は「御持て成し」の精神を持ち合わせている日本人なのだ。そう思うと誇らしくもあり、そのような人であろうと襟を正す思いになる。

オリンピック開催準備のように、私たちの日々にも難題は多々あるが、世界が認めたその精神を忘れずに向き合っていきたいものだ。

はくほう会セントラル病院 広報委員会



医療法人伯鳳会

はくほう会セントラル病院

兵庫県尼崎市東園田町4丁目23番1号

TEL : 06-4960-6800 (代表)

FAX : 06-4960-6900

令和2年3月 発行